

令和4年度 山梨県果樹試験場機関評価結果

1 評価委員名

井原 史雄 (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門 研究推進部長)

原野 博 (山梨県果樹園芸会 会長)

山口 正己 (東京農業大学農学部 客員教授)

奥田 徹 (山梨大学 生命環境学部長)

手塚 英男 (南アルプス市農業協同組合 営農指導部次長)

2 評価実施日

機関評価会議 (書面開催) 令和5年1月25日

3 評価の具体的な評価点、指摘事項及び処理方法

(評価点の目安)

| | | | | | |
|----|----|------|----|------|----|
| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

果樹試験場機関評価表

果樹試験場機関評価会議

| 評価項目 | 評価点 | コメント |
|--------------|--------|--|
| 1 組織管理 | 4.2 /5 | 予算や施設、人員の制約がある中で、研究員の配置、圃場管理要員の確保、施設・圃場を活かした研究課題の設定などが効果的に行われている。継続して研究できる体制を維持していただきたい。 |
| 2 事業内容及び予算配分 | 3.8 /5 | 山梨県の果樹生産を進めるうえで必要とされる事業内容となっている。予算の制約があり、新規の施設や機器、定員の重点配備などの方策の実施が困難な状況が発生する可能性も想定される。機器の購入費用も少なく感じる。外部予算も含め一層の予算の確保が必要と思われる。 |
| 3 施設の整備状況 | 3.2 /5 | 業務遂行に必要な施設が設置、運営されており、整備状況はおおむね良好と評価される。ただし、今後の新規課題に取り組むための機器の整備や温室・圃場施設の設置等を可能とする人員、予算確保の方策を図る必要がある。既存施設や機器の更新も随時進めてもらいたい。 |
| 4 研究事業の成果 | 4.2 /5 | 新品種育成や、品種の導入評価、栽培管理の効率化、施肥基準の明確化等、育種、栽培等の分野で多くの成果が得られており、高く評価できる。 |
| 5 普及啓発活動 | 4.2 /5 | 成果の発表や普及について、新型コロナウイルスの影響もあり思うようにできなかったことも推測されるが、県民の役に立つための普及・啓発は研究以上に重要である。 生産者を対象とした成果発表会、成果情報の提供をはじめとし、学術誌や普及誌への発表、学会報告などが時宜を得た形で行われていると評価される。 |
| 総合評価 | 4.4 /5 | 予算、定員など行政に属する研究機関として、大きな制約がある中で、組織管理、施設整備、研究課題の設定と実施、普及啓もう活動等が適切に進められており、高く評価される。 |

「注」 評価点の目安

| | | | | | |
|----|----|------|----|-------|-----|
| 評価 | 良好 | やや良好 | 普通 | やや不十分 | 不十分 |
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

予算については、必要な経費を確保するため、国や県の行政課題への対応や、総合理工学研究機構の研究費や国庫委託費等の獲得を積極的に進める。
施設・備品の老朽化については、試験場内で整理し、計画的な修理・更新に向け、主管課の農業技術課と協議する。